

平成26年度 総括評価表

徳島県立城ノ内高等学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
リーディングハイスクール事業の推進① 中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が50%以上。	評価指標 「中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が50%以上。	評価指標による達成度 「中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立っている」と答えた生徒39%(+8p)、保護者72%(-2p)、教職員56%(+13p)	総合評価(案) B (所見) リーディングハイスクール事業の推進により、評価指標は概ね向上し、1つの生徒指標を除き、目標ラインに達した。 ただ、依然として生徒・保護者・教職員間の意識の乖離は大きく、合同行事などの取り組みを通じて、全体として活性化が図れるように、効果的な取組をいっそう検討していく必要がある。	中学校に比べて、高等学校の数値が低く、かなり差がある。高校からは一貫教育のメリットを感じにくいのだろうか。 部活動のつながりのない生徒や、他中学校から城ノ内高校に進学してきた生徒にも、一貫教育のメリットが感じられるようにして欲しい。 教職員に関しては、人事異動で転動してきても、すぐに共通理解が得られるような方策を検討する必要がある。
	(下位組織レベル) 中学生と高校生の関係は良好である。	「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が50%以上。	「中学生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒55%(+9p)		
		活動計画 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で実施する。 ②城ノ内祭を中高合同で開催する。 ③一部の部活動で中高合同の練習を行う	活動計画の実施状況 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で2回実施した。 ②文化祭、体育祭を中高合同で開催した。 ③美術部や弓道部など11部で合同練習を行った。		
リーディングハイスクール事業の推進② 確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。	評価指標 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒77%(-2p)、保護者84%(+3p)、教職員88%(-7p)	総合評価(案) A (所見) 各評価指標とも目標をクリアし、良好な評価である。ただし、「学力を伸ばす教育の実践」の教職員評価だけが低下している。リーディングハイスクール事業が始まり、教職員の目標設定が高まったのではないかと推察できる。 「進路・悩み相談」の評価は生徒・保護者・教職員全てで向上している。今年度から学校祭後に面談週間を増設したことが好影響要因と考えられる。 一方、「希望を尊重した進路指導」の項目では、新課程入試初年度ということもあり、保護者に戸惑い等があったかもしれない。情報発信の仕方や生徒一人ひとりの進路希望の把握により一層の工夫が必要である。 進路講演会を学年単独でなく、急遽全校集会に切り替えて実施した。生徒の反応は概ね良好であり、今後の参考にしたい。	学校公開での来校人数については、高校は中学校ほどではないが多いようなので、来校者アンケートなど、保護者の意見をしっかりと取り入れる工夫をしてほしい。 わかる授業への工夫は、保護者だけでなく、生徒からの評価も大切にしてほしい。 授業評価を細かくやっているようなので、そちらもしっかりと続けてほしい。 また、キャリア教育についてもしっかりと取り組んでほしい。
	(下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。	「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が70%以上。	「教職員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員98%(-1%)		
	進路別集会や学年集会の実施。	「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができている」と答えた生徒・保護者が70%以上。	「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができている」と答えた生徒72%(+2p)、保護者73%(-1p)		
	進路相談体制の確立。	「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「先生は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒73%(+3p)、保護者73%(+2p)、教職員95%(+6p)		
		活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③進路に関する学年集会や講演会、及び大学講師等による出張講義を実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。	活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年15回実施した。 ②授業評価を2回実施した。 ③計画的に学年集会や講演会等実施した。 ・学年集会(4年8回、5年8回、6年11回) ・進路講演会(4年3回、5年3回、3年1回) ・出張講義(4年2時間、5年2時間) ④学習実態調査(4年10回、5年9回、6年6回)及び、進路希望調査(4年3回、5年4回、6年2回)実施した。		
				①リーディングハイスクール事業が本格的にスタートし、進路指導の面でも大きな変化が待っている。事業を軌道に乗せ、よりよい進路指導体制を構築するためにも、関係教職員の相互情報交換の機会を増やす必要がある。 ②補習の実施方法については、今後検討していくことになるが、模擬試験後の復習を兼ねた弱点補強の要素も取り入れたものにしていきたい。 ③学習実態調査や進路希望調査など様々なデータの有効活用の方策を再検討する。 ④進路情報に対する生徒や保護者のニーズの把握に努め、きめ細かな進路指導体制を確立する。 ⑤週35時程が開始されるが、時間の有効活用、授業進度などを確認し、教育課程の見直しを必要に応じて行う。	

平成26年度 総括評価表

徳島県立城ノ内高等学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者の意見	
人権教育の推進	(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒67%(-1p), 保護者87%(+2p), 教職員79%(-12%)	総合評価(案) B (所見) 評価指標のうち、全校レベルでの生徒指標においては、昨年に引き続いて目標を下回ってしまった。生徒との保護者の指標は概ね目標値と同程度で向上しているものが多いのに対して、教職員については多くの項目で指標が低下している。特に「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」の教職員指標が、大きく低下した。	日頃の生活上の些細な変化を見逃さない方策や、インターネットを使用する上での情報モラルなどについてももしっかり取り組んでほしい。SNS上での文字による会話などは、誤解を生みやすい。教育相談室やスクールカウンセラーなども用意しているようだが、相談のシステムは、複数のルートを用意し、しっかりと秘密を守った上で、対応できるようにして欲しい。
	(下位組織レベル) ホームルーム活動や学校行事の充実を図る。	活動計画 ①人権ホームルーム活動の研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会等を実施する。 ④職員研修を充実する。 ⑤学校生活に関するアンケートを年2回実施する。	活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業を実施するとともに、毎回、事前研究会を学年別に実施した。 ②全校生徒を対象に人権教育意見発表会を実施した。 ③5年生を対象に人権問題講演会を実施した。 ④中高合同の校内研修会を2回、地域研修会を1回実施した。 ⑤いじめや体罰はもとより、学校生活での悩み等について、生徒全員を対象にアンケート調査を2回実施した。		
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	評価指標 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者74%(±0p), 教職員88%(+5p)	総合評価(案) B (所見) 全般的な生活習慣は概ね良好である。下位組織レベルの各項目についても、「挨拶の励行」以外の各指標においては概ね目標値付近であり、目標を下回る項目の多くでも、改善がみられた。挨拶については、教職員の評価が厳しい。また、挨拶の励行や服装指導については、生徒・保護者・教職員間で達成度に大きな差が見られたことにも注目したい。	基本的な生活習慣の達成指標が中学校から高等学校で下がっているのは、少し残念である。この項目に関しては、学校だけでなく、家庭での指導も大事である。学校と家庭がそれぞれしっかりと、生活指導に取り組むことが求められる。
	(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。 「城ノ内生としての自覚ある行動」の推進。 「時間厳守」の徹底。 「服装頭髪」指導の徹底。	活動計画 ①あいさつ指導の徹底 ②遅刻者は「遅刻カード」を提出する。 ③自転車の駐輪のしかたを指導する。 ④服装頭髪検査を定期的実施する。 ⑤家庭との連携を図る。	活動計画の実施状況 ①全教員が直接指導を行った。 ②授業遅刻も含めたすべての遅刻者は「遅刻カード」に理由を記入し、教頭の指導を受けてから入室させた。 ③年度当初、それ以後は適宜、教員が直接指導を行った。 ④定期的に、学年集会やショートホームルームで服装頭髪検査を実施した。 ⑤PTA総会や学年部会、及び三者面談時に、指導に対する理解と協力を要請した。		

平成26年度 総括評価表

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
防災・安全 教育の徹底 と環境教育 の推進	(全校レベル) 防災・安全教育および環境教育への取組を推進する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価(案) B (所見) 「防災意識の高揚と、防災への取組推進」については、保護者・教職員は8割弱が評価しているが、生徒は6割弱である。交通ルールやマナーについても、改善傾向が見られるものの、依然として芳しくない。これらは、生徒の生命に関わる重要項目であり、指標値が向上するよう、しっかりと検討しなければならない。防災避難訓練は2回実施し、スムーズに行うことができた。また、清掃時間の訓練実施も良かった。交通ルールや交通マナーに関して昨年度よりポイントは改善しているが、達成度は依然として低い。苦情や交通事故もたびたびあり、交通安全意識の向上は喫緊の課題である。清掃については、生徒が6割弱、教職員が大きく15p下がって、6割弱であった。教職員が期待する環境整備には至っていない状況が推察できる。ゴミの分別、節電・節水についても、生徒の評価が低い。	防災への取り組みは、教室で教職員とともに居るときだけでなく、生徒一人の時にでもしっかりと対応できることが重要である。防災訓練も工夫してやっているようなので、さらに進進してほしい。 一方で、全体の指標を下げている要因として、交通や清掃関係の指標がある。防災とこれらの指標は、項目分けて別々に評価する方がよい。さらに、質問内容ももっとわかりやすく明確にして、問題点や改善点につながるようにしてほしい。	③防災・安全・環境教育への意識が低い。学校全体で継続して防災・交通安全啓発を推進する。特に通学時の安全に向けて、交通マナーアップ運動や交通安全教室をさらに充実させ、安全意識の高揚を図っていく。通学時の立哨指導も拡充し、事故防止につとめる。 ②清掃への取り組みは、教員が熱意をもって、ともに取り組みながら伝える以外に良い方法がないことから、生徒と教員と一緒に清掃活動をやっていく。 ③ゴミの分別や節電・節水については、教員の意識を高めると同時に、生徒の意識を改善する働きかけをおこなう。
	(下位組織レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。	「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒57%(-5p)、保護者79%(+4p)、教職員77%(+1p)			
交通ルールや交通マナーを守る。	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒43%(+3p)、教職員58%(+6p)	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒79%(+4p)、教職員77%(+1p)			
	清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている。	「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒62%(+1p)、教職員63%(-15p)			
ゴミの分別や節電・節水に取り組む。	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒58%(-4p)、教職員88%(+12p)	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒57%(-5p)、保護者79%(+4p)、教職員77%(+1p)			
	活動計画	活動計画の実施状況	活動計画の実施状況			
特別活動の 活性化	(全校レベル) 学校行事を充実させ、学校全体を活性化させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価(案) A (所見) 概ね目標値を達成している。城ノ内際、体育祭、球技大会などの学校行事は、生徒会主体に運営され、生徒も積極的に参加していたと思われる。部活動は、放課後や休日に、生徒が主体的に練習に取り組み、全国大会で入賞するなど、活躍する部もみられたが、各指標は若干低下し、次年度以降も活発な取り組みを維持できるか、今後への不安が感じられる。部活動と学習の両立に関しては、努力をしている生徒が多い。	全体的に高い評価で、良い。さらにしっかりと取り組んでいってほしい。 ①次年度から7時間授業となり、放課後の部活動をする時間に制約をうけることとなる。各顧問の指導により、生徒が、時間をより有効につかたり、練習における集中力を高く維持できることが必要であると感じられる。 ②学校行事においては、生徒の安全に留意して計画する。特に城ノ内祭模擬店における指導を改め、食中毒の危険性を低減させる。	
	(下位組織レベル) 部活動を活発にする。	「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「部活動は活発である」と答えた生徒76%(-7p)、保護者81%(-8p)、教職員67%(-9p)			
部活動と勉強の両立を図る。	「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒82%(+1p)、保護者86%(+1p)、教職員91%(+7p)	「部活動と勉強の両立を図ろうとしている」と答えた生徒84%(+2p)、保護者92%(+2p)、教職員86%(-4p)			
	活動計画	活動計画の実施状況	活動計画の実施状況			
部活動と勉強の両立を図る。	①部活動を活性化させる。	①部活動加入率は4年91%、5年86%、6年83%[4月末現在]	①部活動加入率は4年91%、5年86%、6年83%[4月末現在]			
	②生徒会活動を活性化させる。	②「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒58%(-3p)、教職員86%(+3p)	②「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒58%(-3p)、教職員86%(+3p)			
部活動と勉強の両立を図る。	③調査前の活動自粛など、部活動と勉強の両立体制を確立する。	③全部活動で、調査期間中の活動を届出制とし、限られて時間の実施とした。	③全部活動で、調査期間中の活動を届出制とし、限られて時間の実施とした。			

平成26年度 総括評価表

徳島県立城ノ内高等学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイントを表す	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する。	評価指標 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者が70%以上。	評価指標による達成度 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者85% (+1p)	総合評価(案) A (所見) 各指標とも高い評価で維持できている。体験入学、文化祭や学校公開は本校理解に効果的であると判断できる。今後も継続していく必要がある。また、ホームページも活発な情報発信を継続できており、内容も充実している。このため、ホームページへのアクセス件数も高い水準を維持している。平成27年度に向けてスクールガイドを大幅に改訂し、好評を得た。	全般的にしっかりと取り組んでいる。特にHPは充実している。昨年に比べても、多くの教職員が記事作成に関わっていることがわかり、内容も多彩で好感が持てる。引き続き、続けていってほしい。	①本校の理解、周知に向け、中学生体験入学の参加者がさらに増えるように、内容の一層の工夫充実を図るとともに、広報活動にも力を入れる。 ②懸案である高校からの志願者増を実現するために、本校の魅力を最大限にアピールできる新たな教育を作り出す。 ③ホームページを更に充実したものにする。 ④スクールガイドをさらに充実させていく。 ⑤中学校での進学説明会で積極的なPR活動を行う。
	(下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。 中学生体験入学や学校公開の日の実施。 城ノ内祭の公開。	ホームページの更新にすべての教職員が関わり、少なくとも週に1度は更新する。 「中学生体験入学や学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が70%以上。 「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	多くの教職員がホームページの更新ができるようになり、学校全体として平均週5回以上は更新することができた。 「中学生体験入学や学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者89% (+6p)、教職員83% (+4p) 「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒87% (+8p)、保護者88% (-4p)、教職員84% (-6p)			
学校運営体制の充実	(全校レベル) 月例運営委員会や職員会議を活性化させるとともにPTA活動の充実を図る。	評価指標 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上	評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒78%(±0p)、保護者90% (+6p)	総合評価(案) A (所見) 本校の教育活動については、本年度も生徒・保護者から高評価を得ることができた。PTA総会や学年PTAでは、多数の保護者が出席し、熱心に取り組めた。学年懇談や学級懇談を通して学校の状況を把握し、また三者面談や個人懇談を通して生徒一人ひとりの理解を深めることができた。PTA家庭教育研修部を中心に各種行事が行われ、保護者の親睦をかねて熱心な活動ができた。ただ、学年会においては定期的に開催できておらず、今後の課題となっている。	この項目も、評価は素晴らしい。ただ、駐車場の問題は、この地域全体の抱える課題であり、難しい問題である。 全体を通じて、課題はしっかりとあげられているが、具体的な方策はあまり書けていない。今後は、具体的な取り組みがもっと出せるようにしてほしい。	①PTA総会や城ノ内祭において、多くの保護者が来校されるが、駐車場の確保が大変難しい。とくに、雨天時や天候が危ぶまれる際に、保護者への連絡を迅速かつ確実に行う方法を考える必要がある。 ②生徒が主役の学校教育活動が展開できるようにさらに学校と保護者の理解を進め協力体制を強いものにする。 ③課内会議や学年会、教科会の場を増やし、教職員間により一層の共通理解を図る。
	(下位組織レベル) 月例運営委員会で学校生活や教育活動全般を点検するとともに、各学年、各課などにおいて課題解決を図る。	「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上。 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上	「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒88%(±0p)、保護者94% (+2p) 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者86% (+1p)、教職員98% (+3p)			